

政策提言 その1 県内の状況報告

# 景観に配慮したまちづくり

～北前船ゆかりの地の事例から～

教育企画課・宮崎 一郎



写真1：北前船

## 1.はじめに 北前船の栄えた時代

江戸時代後半～明治初期にかけて、大坂から北海道までの日本海側を北前船という一本マストの和船が活躍していました(写真1)。当時は、鉄道もなく、輸送の主役はこの船でした。しかも、風任せなことから、日本では偏西風の影響をまともに受け、太平洋側で航海すると太平洋のかなたに流される危険性があったため、日本海がメインストリート、今で言うと、東海道新幹線と東名高速を合わせたイメージの大動脈だったのです。その新幹線に相当したのが、富山では、伏木、吉久、新湊、岩瀬、水橋です。また、その時代が、富山が一番栄えた時代の1つであり、数々の公共投資や全国的にみても贅を尽くした町屋の建築がなされました。



写真2：日本海北前シンポジウム

また、富山県の北前船主らは、儲けたお金を惜しげもなく、公のために費やしました(藤井能三、馬場ハル等)。まさに、富山県の近代化は、北前船主の力なくしては、なしえなかったと言っても過言ではありません。また、その家から堀田善衛のような県内唯一の芥川賞作家なども輩出しております。

私たち「北前船新総曲輪夢倶楽部」(県庁自主研究サークル)では、平成15年に結成以来、本県の北前船で栄えたまちの地元の方と一緒に、県内外の北前船ゆかりの地を定期的に回ったり、その船主の人物像を検証したりしています。また、北前船関係のイベントに参加したり、お手伝いもしております(写真2、3)。

今回は、本県ゆかりの地の現状を紹介し、次号では、他県の事例と県職員・住民・県議会議員の役割等を提言しようと思います。



写真3：北前船模型製作教室

## 2.本県事例

現在、本県の北前船ゆかりの地はどうなっているのか。その現状を報告します。

### 1) 新湊市内川地区(地図1)

和風の木造家屋が内川沿いに連続しており(写真4)、その屋根のスカイラインと、内川に並ぶ漁船、川縁にシートを敷いてお酒を楽しんでいる家族(写真5)、(船のお払いをするため)正面を内川に向けている西宮神社等(写真6)が、「世界に誇れる景色」を形成しています。さらに、一步入ると板塀の路地、昔ながらの商店(写真7)なども残して欲しい風景と思いました。また、数十軒もある角きりの家(私称「電気ビル様式」)も、世界にない、すばらしい風景と感じました(写真8)。しかしながら、屋根のスカイラインを壊す建築、トタン貼りや、和風でない家、駐車場等の空き地が増えており(写真9)、新湊のまちなみとしてふさわしい建物の意匠、色を揃えるなど、早急に景観保全しないと世界で唯一の景観が破壊されてしまいます。

### 2) 高岡市伏木地区(地図2)

(北前船主の寄進で建てた)勝興寺から旧秋元家(北前船資料館：写真10)までの間は、昔ながらの家が点在し、また坂の階段が

### 1) 新湊市内川地区

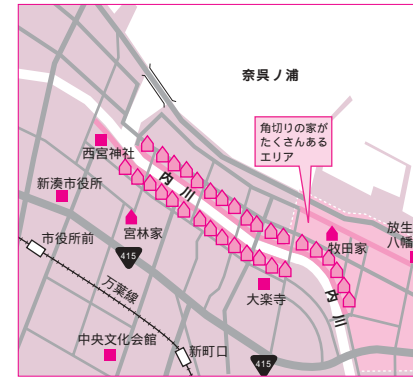


写真4：新湊市内川



写真5：くつろぐ家族



写真6：西宮神社



写真7：内川の南側の商店街



写真8：角切の家



写真9：壊され分断された町並

いい雰囲気を出しています。この他に、棚田家(写真11)、藤井能三家の門、測候所跡、(伏木高校の)堀田善衛 文庫、伏木小学校の藤井能三銅像等、北前船ゆかりの資源が目の見えないまま眠っています。ここも、まちなみに不相応と思われる建物が建ち始めているので、

### 2) 高岡伏木地区

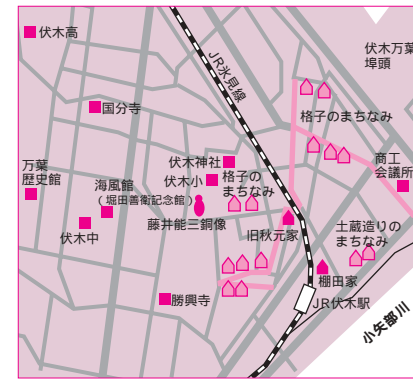


写真10：伏木北前船資料館



写真11：棚田家



写真12：伏木勝興寺前



写真13：旧測候所

せめて伏木駅～勝興寺～旧秋元家までの間は、景観に似合った建物の意匠、色を統一し、路面も重点的に笏谷石風にするなど早急に景観保全すべきかと感じました。

また、新築・改築される方は是非、意匠を合わせるご英断をいただければと思います。勝興寺本堂の改修工事が終了し、観光客が徐々に増えています(写真12)ので、今こそ住民一丸となって真剣に考

えるべきだと思います。

また、金沢市金石地区では、銭屋五兵衛の記念館が建てられ、多数の観光客がバスで乗りつけている盛況ぶりに対し、表のように藤井能三さんに対する顕彰が、あまりにもなされていないことは非常に残念です(表)。藤井能三が建てた旧測候所(写真13)を能三さんの記念館として蘇らせてはいかがでしょうか。

名前	銭屋 五兵衛	藤井 能三
生まれ	金沢市宮腰(現在の金石) 1773年 - 1853年(80歳) 商家の長男 材木問屋 北前船主 御手船	射水郡伏木生まれ(現在の高岡市伏木) 1846年 - 1913年(66歳) 廻船問屋の能登屋の長男
加賀藩の借金の保証額	150貫匁	150貫匁(父の代)
資産	土地：700石	土地：1,100石
長者番付	東の筆頭	西の筆頭
当時の行動・性格	(当時の商人にとっては、一般的である) お金儲け主義	(東京に出て一旗上げることが、美談とされている) 郷土を愛し、地元の発展のために私財を投げうった。一方で、世界に目を向ける国際人でもあった。
主な社会貢献	・河北潟干拓(新田開発) (危険率の高い廻船業からの業種転換、あくまで自分の儲けのためとも言われている) しかし、新田開発は、そらばんにあわないと嘆く。 地元の百姓を雇わず、能登から動員したため、地元の仕事が回ってこないと惜まれる。 河北潟に毒を流したとの疑いをかけられ死刑の判決(実際は自然腐敗が通説)、家財道具全て没収	・防波堤を建設。これにより生まれた土地は、全て村に寄付。そういう父の背中を見て育つ。 ・県内初の小学校を開く(1873年)、先生の給料も工面 ・病院・警察・消防署建設、学校教科書購入費に寄付 ・石川県境の天田峠等道路開設に寄付(もらったお金はすべて公益に投じたともいえるのは) ・日本海側初の西洋式灯台建設 ・大型汽船の定期航路開設に努力 ・庄川と小矢部川の分離改修工事等多数
当時の庶民の評判	1代で財を築いたため、民衆の支持は少なかった。毒を流した証拠もないのに、世論に負け藩も処罰した。	倒産したが、伏木町民の劇的な支援により再起
現代の顕彰	S8年銅像建立 銭屋五兵衛記念館設立 観光客多数 30余りの本が出されている。	伏木小学校で地道に郷土学習が行われている。特に一般に公開されている場での功績についての顕彰の場がない。伏木地区以外の人は殆ど関心がない。

結論：同じ北前船で財力をなしたが、性格や当時の評判は正反対だった。しかし、現代の顕彰は、なぜか銭屋の方が厚い!

表：北前船主(廻船問屋)の比較  
銭屋五兵衛VS藤井能三

3) 高岡市吉久地区

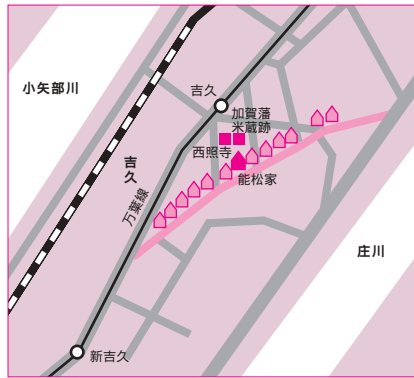


写真14：吉久の町並

4) 富山市岩瀬地区



写真15：米田家



写真16：馬場家



写真17：岩瀬大町通り

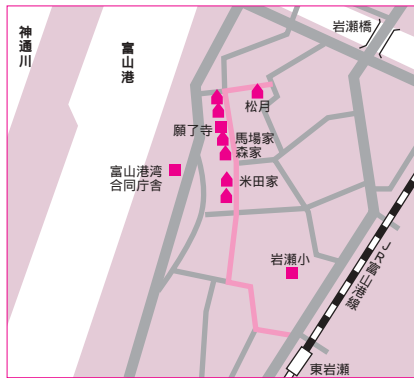


写真18：改装中の米蔵



絵：タテモン（17mあった）

5) 富山市水橋地区

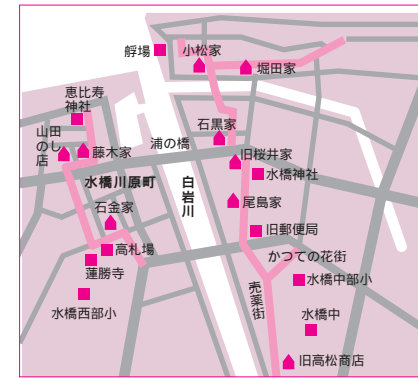


写真22：旧郵便局



写真23：かつての花街



写真24：登録有形文化財石金家



写真25：石金家の朽果てた蔵



写真26：取り壊される前



写真27：新しく建った家



写真28：格子の家（空き家）



写真29：プラスチック製の高札場跡

3) 高岡市吉久地区 (地図3)

登録有形文化財に登録されている能松家などの格子戸のまちなみが、主に通りの西側に連続しています(写真14)。まちなみアート等を開催することにより、最近住民のまちなみに対する共通意識が芽生えはじめています。また、獅子舞を介して、旧町の方と新興住宅地の方との一体感も出てきているとのこと。

4) 富山市岩瀬地区 (地図4)

大町通りに、森家、米田家(写真15)、馬場家(写真16)等の旧北前船主の館が残っています(写真17)。馬場家は、かなりガタがきつがあります。ここは、枳田酒造さんが、米蔵を改装したバー、蕎麦屋等でまちに賑わいを、という仕掛けをしています(写真18)。上野教授(富山国際職藝学院教授)によると、ここは、「塀の博物館」というくらい様々な塀があるので、それを売りにしてみることは一つのアイデアかもしれません(前出米田家も昨年板塀に復元)。また、電線をなくせば、かつて17m(現在4.5m)もあったタテモンが復活できる可能性もあります(絵)。

ただ、まちなみのスカイラインが、銀行、病院、おみやげ物屋の看板建築によって不統一になっているのが少し残念です。

5) 富山市水橋地区 (地図5)

1. 東水橋(白岩川右岸河口周辺)

白岩川沿いの(富山平野の米を舟から降ろした地で、知る人ぞ知る米騒動の発祥の地)旧高松商店から売薬製菓まちの新大町(写真19)を通り、河口の舂場までの間に尾島家、旧桜井家(写真20)、石黒家(写真21)、小松家などの旧北前船主の家が点在しています。また、旧郵便局(写真22)や、この通りから東に向かえば旧花街の跡(写真23)などもあり、大八車が米を運んだ当時の面影が偲ばれます。この間を重点化するべき(例えば、廃館になった水橋郷土資料館の売薬関係資料を持ってくる等)です。

2. 西水橋(白岩川左岸河口周辺)

登録有形文化財の石金家(写真24)をはじめ、高札場跡地、山田のし店、(船頭さんの家の)藤木家、(北前船の絵馬のある)恵比寿神社等が、当時の姿を偲べます。

石金家では、蔵がたくさんあるものの、

かなり老朽化しています(写真25)。隣には、元横綱梅ヶ谷の生家が平成16年まであったのですが、残念ながら取り壊されました(写真26-27)。また、格子戸の家の空き家が所々に見られます(写真28)。このように当手を偲ばれる家がどんどん消え行く運命にあります。

石金家の蔵を改装して公共スペースなどにしたり、簡単にやれることとしては高札場の掲示をプラスチック(写真29)ではなく、昔ながらの木製にしたいかがでしょうか(まちなみウォークをやってみて、一番印象に残るのは「人との出会い」と感じましたので、地元の方と会話しながらまち歩きを楽しむことを観光客に提案しているような高札ではないかがでしょうか)。

3. 終わりに

我々は、県内にはこんなに歴史・文化があったのかということ、実際に現地を調査してみたり、住民の方々からお伺いしたりして、再発見しました。

しかし、うまく活かされていないと感じました。また、このまま放っておいてはせつかくの資源がどんどん消えていく運命にあります。その原因は、主に富山県人の気質や自宅周囲の景観への無関心さが関係しているのではと、現地を見て思いました。

次号では、このような富山県人の気質をどう変え、まちなみを保存(復活)するのか、そのための方策を提言させていただきます。

みなさんも、これを機会にこの誌面にある北前船ゆかりの地を散歩してみませんか。同行の依頼は喜んで承ります。次号までに私たちと一緒に考え、一緒に提言してみませんか(次号に続く)。

注釈

- 北前船：北海道で昆布・鱈、北陸で米等を安く仕入れ、高く売ってお金を稼いだ(運賃制ではなく)買積船。大坂、瀬戸内の人々が北からの船のことをこう呼んだ。
- 堀田善術：1918年高岡市伏木の回船問屋(鶴屋)に生まれる。富山県出身で唯一の芥川賞作家
- 笏谷石(しゃくだにいし)：福井市足羽山麓で採れた石。北前船で各地に運ばれた。やわらかく加工しやすいため、玄関、塀の基礎などに活用された。雨に濡れると青く趣が出る。
- 梅ヶ谷：1878年西水橋の売薬の家に生まれる。第20代横綱。西水橋出身。明治時代後期の相撲黄金時代を築いた。

参考

- 「銭屋五兵衛と北前船の時代」木越隆三(北国新聞社)
- 「人物を中心とする日本史の学習指導に関する研究」古岡英明
- 日本政策投資銀行薬谷浩介調査役の講演、アドバイス等

PROFILE

宮崎 一郎(みやざき いちろう)  
1966年氷見市生まれ。  
教育企画課教育企画主査。  
(最近、年をとったせい)古いまちなみに興味を持ち始める。家族を連れ回しながら、つい景色に夢中になり、子どもが車にひかれかかる危ない目に何度か遭う。

